



さい帯血バンク NOW

第70号

2013年6月15日発行

日本さい帯血バンクネットワーク

発行者：加藤俊一（会長）

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3 日本赤十字社ビル内

TEL 03-5777-2429 FAX 03-5777-2417 <http://www.j-cord.gr.jp/>

1万例記念大会を9月28日に開催へ

本誌前号でお知らせしたように、これまでにわが国で実施されたさい帯血バンクを介したさい帯血移植が、この8月にも累計で1万例を突破する状況となりました。日本さい帯血バンクネットワークではこれを機会に記念事業を行うこととし、実行委員会を設置して準備を進めています。

9月28日（土）午後、さい帯血移植1万例突破記念大会「さらなる飛躍へのステップ」を東京・港区のTKP田町カンファレンスセンターで開催します。

日本さい帯血バンクネットワークでは「さい帯血バンク推進全国大会」を年次報告会をかねて毎年9月に開催しています（昨年は骨髄バンクと合同大

会）。今年はこの恒例の全国大会の規模と内容を拡大して記念大会を開催するものです。

■事業報告と記念講演

まず「移植1万例突破のあゆみと年次報告」があります。記念講演として「さい帯血造血幹細胞発見秘話とiPS細胞ストックへのさい帯血活用の近未来

像」と題して中畑龍俊氏（京都大学iPS細胞研究所副所長）にお願いしました。中畑氏はさい帯血の中に移植に使うことができる造血幹細胞があることを発見した当事者でいらっしゃいます。もう一つの記念講演は近畿さい帯血バンクの採取施設済生会京都府病院産婦人科部長の加藤淑子氏による「さい帯血採取の現場からビジュアルな視点で」です。

■さい帯血の広場「1万分の1の体験者たち」

1万例の中には、海を渡ったさい帯血もあります。日本のさい帯血バンクから海外に提供されたさい帯血を移植して社会復帰したレシピエントとその主治医を招き、お話をうかがう予定です。さらに実際にさい帯血移植を体験して社会復帰した患者さんたちを囲み、闘病とさい帯血移植の実際についてお話をうかがうとともに、それぞれの「1万分の1の体験」からこれからのさい帯血移植像を探っていきます。

■記念誌も

記念大会にはどなたでも参加できます。また、これまで発行してきた本誌「さい帯血バンクNOW」全号の縮刷版を収載した「さい帯血移植1万例突破記念誌」も編集発行し、記念大会参加者に無料で配布する予定です。多くのおみなさまの参加をお待ちしております。

●「さらなる飛躍へのステップ」

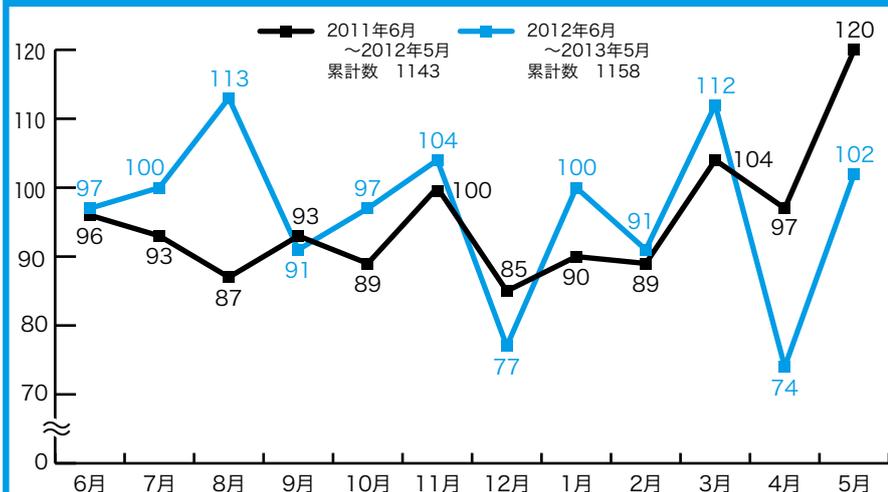
さい帯血移植1万例突破記念大会

■日時：2013年9月28日（土）午後2時から午後5時30分

■会場：TKP田町カンファレンスセンター
東京都港区芝5-29-14田町日エビル
TEL：03-3456-2750

非血縁間さい帯血移植状況(2013年6月1日現在の速報値)

移植数（累計） **9732** 公開数 **24013**



※複数さい帯血移植数を換算しています。



造血幹細胞移植のポータルサイト構築へ準備

昨年成立した造血幹細胞移植推進法（略称）で支援機関として位置づけられた日本赤十字社は、造血幹細胞移植に関する情報の一元的管理を想定したポータルサイト（インターネットにアクセスするときの入口となるウェブサイト）の構築についての検討を始めており、今年4月から関係機関（骨髄バ

ンク・さい帯血バンク・日本造血細胞移植学会・日本造血細胞移植データセンター）が集まったの協議が始まりました。

ポータルサイトでは、適合検索や、患者登録、移植申込、移植進行状況管理、移植報告受付機能を持つシステムとの連携が想定されます。このため、

補正予算、平成26年度予算に向けて国庫補助金の予算要望を行うことになりました。また、今後は各組織で必須となる機能をそれぞれが十分検討し、協議を進めていくことになりました。なお、このポータルサイトはおよそ3年後の運用開始を目指しています。

東海大学バンクでHLAデータミス

東海大学さい帯血バンクは、公開さい帯血のHLAデータの間違い事例が見つかったため、安全を確認するために今年3月19日から当時3157件あった検索対象のさい帯血公開を自主的に取り消しており、5月末に至るまで、東海大学さい帯血バンクの公開さい帯血がゼロという事態が発生していました。

これまでに東海大学さい帯血バンクから日本さい帯血バンクネットワークの事業運営委員会にあった報告によると、3月12日に移植病院からさい帯血の提供申し込みを受け、翌日に申し込みのあったさい帯血のセグメント（さい帯血バンクでは保存してあるさい帯血を移植用の本体とその一部を分けた検査用セグメントを同時に凍結保存しています）の提供時に行うHLA検査をしたところ、公開さい帯血のHLAと異なっていることがわかったものです。その後、このさい帯血と同じ日にHLA検査を行った別のさい帯血のセグメン

トについてHLAの再検査を行ったところ、別のさい帯血のHLAのデータが入れ替わって登録されていたことが判明しました。

東海大学さい帯血バンクでは、このデータ取り違い事故を受けて、外部からの委員を含めた事例調査委員会を設置し、委員会から安全性優先の立場から再検査の提言があったということです。なお、東海大学さい帯血バンクでは事例調査委員会を構成する委員、調査報告書とも非公開としています。

東海大学さい帯血バンクの母体である東海大学病院では、2007年末にHLA検査（さい帯血ではない）の際に検体の取り間違い事故が発生したため、原因の根本的な分析に基づく検討が行われ、手順書の見直し、それに基づく教育訓練をし、それ以降のHLA検査の信頼性は大幅に向上しているということです。今回の事例は、それが行われる前の2003年4月に調製保存が行われた

ものでした。

東海大学さい帯血バンクでは、東海大学の方針に従い、5月13日より再検査を開始し、順次再公開していくとしています。

なお、この事例の原因となったさい帯血提供の申し込みをされた患者さんには、移植病院との話し合いの結果、東海大学さい帯血バンクが保存していた別の代替さい帯血を3月19日に搬送し、当初の予定通り移植されたとのことでした。

バンク事業は終了へ

東海大学さい帯血バンクは、2013年度末をもってさい帯血バンクの事業を終了することを決めており、終了後は保存中のさい帯血を日本赤十字社へ移管する方向で話し合いが行われています。



すこやかに、幸せに。

明日への夢、描きたい。

人から人へ、心から心へ、医療という名のヒューマンなコミュニケーションを広げたい。真の健康を守り、幸福な社会を築くために、優れた医療器具を広くおとどけしているニプロ。

私たちニプロはさい帯血を採取保存する技術でさい帯血バンクを応援致します。



ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号



連載第④回 元気になりました

夫の闘病に寄り添って 佐々木弘美

余命2カ月

2009年7月、主人（当時53歳）は、慢性骨髄性白血病と診断されました。その時は、慢性期ということで、グリベック（分子標的薬）を服用すれば、90%以上の方が、普通に日常生活を送れているとのことでしたので、主人もグリベックを服用しました。しかし、1年後の2010年9月、ごく稀な症例で、急性転化に移行してしまいました。そして、主治医から「あなたの命を助ける方法は、骨髄移植しかありません」と言われ、入院となりました。

病棟の主治医からは「あなたのご主人の今の状態は、何もしなければ、予後2カ月くらいですよ」と言われました。そして「早急に兄弟でドナーになれる人を探し、いなければ、『さい帯血移植』をしなければなりません」ということでした。

化学療法

入院前日まで、グリベックの多少の副作用はあったものの、普通に仕事をしておりましたので、主治医の言葉は、大変ショックでした。すぐに主人の妹の血液検査をしましたが、適合せず、「さい帯血移植」をすることになり、その準備に入りました。その最初の治療で、抗癌剤を投与したところ、予想外に寛解となり、これならば、移植まで期間をおけるかもしれないということになり、骨髄バンクに患者登録をして、ドナーが決定した時点で、骨髄移植をしようということになり、登録をしました。

さい帯血移植

ところが、2回目の抗癌剤投与の後、白血病細胞が急激に増加してしまい、再び「このままでは、予後は数カ月です。早急にさい帯血移植をしなければ

いけません」とのことで、急遽すぐに移植ができる病院を探してもらい、転院して2011年2月10日にさい帯血移植を受けました。

さい帯血移植は、骨髄移植に比べて、生着するまでの期間が長く、感染症などにかかる可能性が高く、慢性骨髄性白血病の急性転化した患者の移植成功率はかなり低いと聞いておりましたので、移植後、白血球がゼロの状態だった20日間は、発熱、嘔吐、下痢、口内炎に苦しめられ、見ている私も不安で仕方ありませんでした。

移植後、20日目の血液検査で白血球が100と出たときは「奇跡だ〜!」と本当に嬉しかったのを思い出します。この人は「生きられる……」と思いました。

ゆっくり

しかし、そのあとの回復が、思うように進まず、主治医からは「牛歩のごとくですね」と言われました。そのとおり、ゆっくり、ゆっくり、回復に向い、移植から100日目、入院生活8カ月半で退院することができました。正直に言って主人も私も、元気になって自宅に帰ることができる可能性はかなり低いのではないかと感じていましたので、感激ひとしおでした。

主治医の先生をはじめ病院スタッフの皆さまのお力に心から感謝していま

す。そして、なにより、さい帯血を提供してくださったドナーさんに感謝するとともに、健やかに成長されていることを祈っております。

退院後は、少しでも早く社会復帰できるように、と頑張っておりましたが、退院後2カ月で残念なことに再発してしまいました。それでも、新しい薬『タシグナ』を服用して移植後、500日を過ぎた現在、寛解状態を保っていて「完治」を目指しています。一次は『タシグナ』の副作用と感染症で、再入院しましたが、今は、毎朝、30分ウォーキングできるほどに体力も回復しました。

人生を楽しむ

自営の仕事も病気になる前のペースには戻せませんが、体調と相談しながらのんびりやっています。病気になる前は、仕事、仕事で、ろくに休息を取らずに、頑張っていた主人ですが、今は、夫婦で出かける機会も増え、ゆったりと人生を楽しみながら、日々を送っております。このような生活ができるのは「さい帯血移植」のおかげです。本当にさい帯血移植の力は、素晴らしいですね。

これからも「さい帯血」で、たくさんの方の命を助けてほしいと願っております。

（静岡県浜松市在住）

元気になりました 移植患者さんの手記大募集

本誌『さい帯血バンクNOW』では、さい帯血移植を受けられて、元気になった移植患者さんの手記を連載しています。移植から1年程度以上経過して、健康を回復された患者さんは、体験やメッセージを書いてみませんか。原稿は2000字程度にまとめて、写真やイラストなどともにお送りください。投稿は郵送でもメールでもかまいません。また、いただいた原稿は本誌に掲載するほか、さい帯血バンクの広報活動で使わせていただくことがあります。どうぞふるって手記をお寄せください。

〈送付先〉

〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-3日本赤十字社ビル内
日本さい帯血バンクネットワーク「さい帯血バンクNOW」編集部宛
network-jimukyoku@j-cord.gr.jp



移植病院 訪問

②4小倉記念病院

新病棟で難しい移植にも

九州の玄関・北九州市の小倉駅で新幹線口を出ると地上2階部分の広々としたデッキの広場があって、そこからずっと歩行者用の回廊が街路沿いに延び、近隣の建物をつないでいます。駅から歩いて5分ほどで、道路を横断することもなく病院の玄関へとたどり着くことができます。そんな便利なところに小倉記念病院はあります。



半数以上はさい帯血

小倉記念病院での骨髄移植の歴史は1968年の小児科での成功例にさかのぼりますが、小児科はやがて閉科となりました。成人領域での移植は1980年代から始まりましたが、同種造血幹細胞移植を年間10例以上行うようになったのは1990年代後半になってからです。それが3年ほど前から飛躍的に増え、年に30例ほどの同種移植を行うようになった理由は「2010年末に現在の病院が完成して移転したのですが、院内で前処置の全身放射線照射ができるようになったことが大きいでしょうね」と血液内科の今田和典部長は分析します。さい帯血移植は2002年に始まり、これまでに70例ほどを実施しています。今では移植全体の半分以上はさい帯血移植で、骨髄バンクを介した骨髄移植は2割ほどだそうです。

ハイリスク移植

血液内科の病棟は33床、無菌室は15床で、入院患者の3分の1が移植関連

だということです。血液内科のある近隣5病院とほぼ毎月症例検討会を開いているので、移植のために転院してくる患者さんも多いとのこと。今田部長は「当科の移植はハイリスク例が多い状況です。特に去年のさい帯血移植は19例中8例が再移植でした。やはり待てない患者さんが多いので骨髄では間に合わないこともさい帯血移植が多い原因でしょうね。でも、長期生存の可能性があるのなら積極的に移植をしています」という姿勢が意欲的でした。

歯科医の協力

最近では、移植患者の多くが悩まされる口内炎対策にも積極的に取り組んでいます。病院に歯科がないので院外の歯科医に協力してもらっているそうです。その取り組みのひとつ、あごの障害「顎関節症」の患者さんが使うマウスピース（=写真）を移植後の口内炎・粘膜障害のある患者さんに装着してもらったところ、口腔内



感染も減るなど大きな効果が上がっているとのことでした。また、今後は九州という地域性から比較的患者の多い成人T細胞白血病（ATL）にも取り組んでいきたいと今田部長は意欲を語っていました。

■善意のお気持ちに感謝します■

北海道	西江靖幸 様	1,000,000円
兵庫県	井出俊彦 様	300,000円
東京都	富士ゼロックスシステムサービス株式会社	50,000円
東京都	富士ゼロックスシステムサービスボランティア基金	50,000円
大阪府	福田博行 様	20,000円
静岡県	佐々木通裕 様	10,000円
愛知県	下野喜美子 様	10,000円
埼玉県	大寺信行 様	6,000円
宮城県	(匿名希望)	5,000円
東京都	松本博・翔次郎 様	3,000円
東京都	松本智子 様	3,000円
埼玉県	河野雅幸 様	3,000円
	エンドウマサコ 様	10,000円

〈寄付受け付け専用口座〉

●郵便局からの振り込み

00180-9-57390

●他の金融機関からの振り込み

金融機関名：ゆうちょ銀行

金融機関コード：9900

支店番号：019（銀行のATMから当ネットワークへ寄付金を送金する場合は支店名は『レイチキョウ』と入力してください。）

預金種目：当座

口座番号：0057390

口座名義：日本さい帯血バンクネットワーク